

WEEK1 アクティブ・ラーニングについて知ろう

ワークシート目次

1. SESSION 1 アクティブ・ラーニングとは
2. SESSION 2 アクティブ・ラーニングの現状
3. SESSION 3 アクティブ・ラーニングを選ぶ
4. SESSION 4 アクティブ・ラーニングの方法を適用する
5. SESSION D 自己紹介
6. 各セッションの多肢選択課題一覧
7. 参考文献

WEEK1 の目的と目標

目的 アクティブ・ラーニングについて理解を深める

到達目標

1. アクティブ・ラーニングとは何かを説明できる
2. アクティブ・ラーニングの現状を説明できる
3. アクティブ・ラーニング手法の適用について説明できる





1. SESSION 1 アクティブ・ラーニングとは

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所ではテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W1.S1.Question1

皆さんにとって「アクティブ・ラーニング」とはなんですか？

「アクティブ・ラーニングって何？」と聞かれたらどう答えますか？

(あなたの考え)

W1.S1.Question2

次の3つの定義をみて、これらの共通点を探してみましょう。

「学生を巻き込んだ学生自身が活動し、その活動自体について思考する、取り組みの全て」

(Bonwell & Eison, 1991)

「授業において、学生が単に『見たり』『聞いたり』『ノートをとったり』する以上の活動をするようデザインされた教授内容に関係すること全て。」(Felder & Brent, 2009)

「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学修法の総称」(文部科学省, 2012)

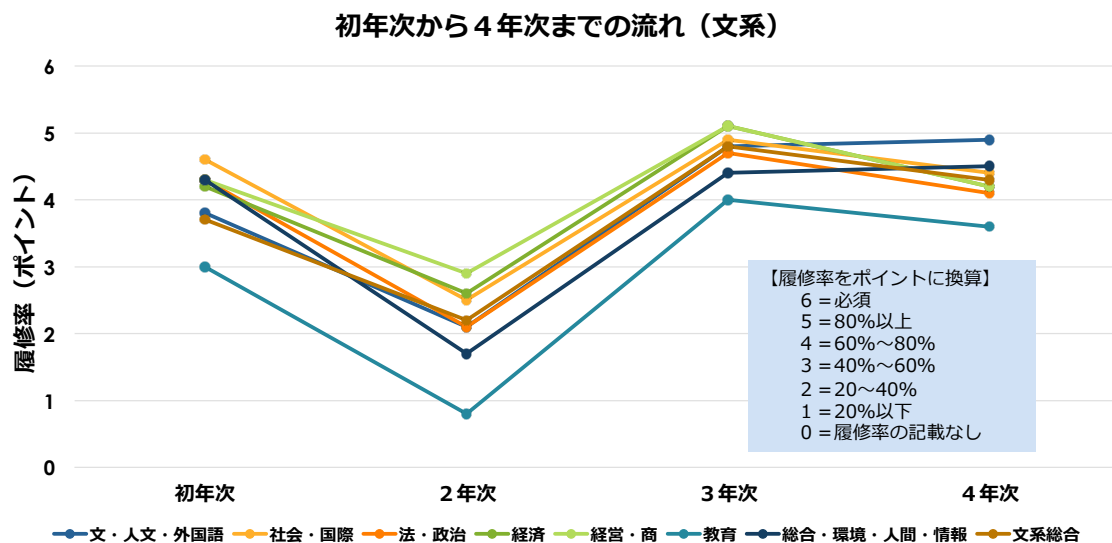
(あなたの考え)

2. SESSION 2 アクティブ・ラーニングの現状

下記はこのセッションで使う Handout です。お手元においてセッションの動画を視聴して下さい。

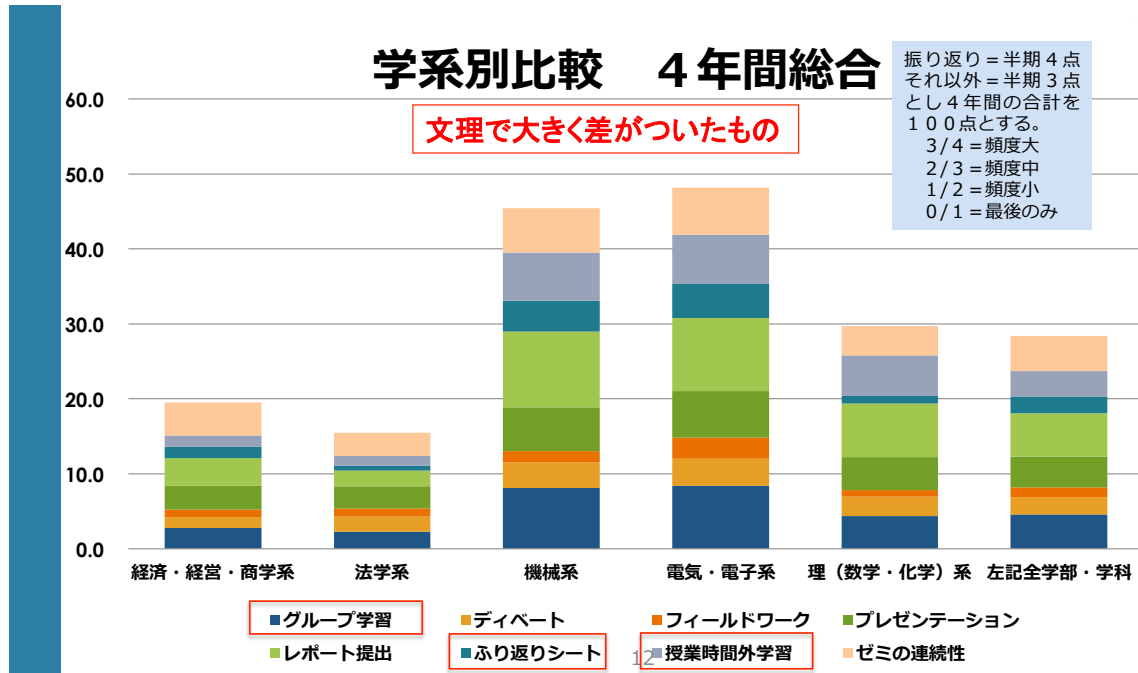
W1.S2.Handout

学年別／系統別にみる 初年次ゼミ、課題解決型科目、専門ゼミの平均履修率（ポイント）の合算



初年次ゼミに含まれるアクティブラーニングの形態(半期3点満点)

	対象科目数	グループ学習	ディベート	フィールドワーク	プレゼンテーション	振り返り	時間外学習
文・人文・外国語学系	377	1.7	1.2	0.7	1.8	1.5	1.8
社会・国際学系	203	2.1	1.6	1.2	2.0	1.7	1.8
法・政治学系	134	1.9	1.5	0.8	1.9	1.5	1.6
経済学系	112	1.8	1.3	0.8	1.8	1.6	1.6
経営・商学系	246	1.9	1.2	0.8	1.8	1.5	1.6
教育・教員養成系	47	2.0	1.2	1.2	1.6	1.6	1.4
理学系	126	1.8	1.2	0.8	1.8	1.8	1.7
工学系(建築学系を除く)	452	1.9	1.2	1.1	1.4	1.4	1.5
建築学系	101	1.8	1.0	1.3	1.5	1.3	1.4
生物生産・応用生命学系	57	2.2	1.4	1.4	1.5	1.4	1.6
総合・環境・人間・情報学系	164	1.9	1.3	1.1	1.9	1.4	1.5
全体	2019	1.9	1.3	1.0	1.7	1.5	1.6



3. SESSION 3 アクティブ・ラーニングを選ぶ

下記はこのセッションで使う Handout と Question です。お手元においてセッションの動画を視聴して下さい。

W1.S3.Handout ミニツツペーパーの例

--

名前	年 月 日
今日の授業を受けて、もっと学びたいと思ったことは何ですか。	

W1.S3.Question1

多様なアクティブ・ラーニングのなかから目的に応じて手法を選ぶ際の観点として、「形態」、「時間」、「構成」、「大人数講義に使えるかどうか」以外に追加したらよいと思う観点を考えてみましょう。

(あなたの考え)

4. SESSION 4 アクティブ・ラーニングの方法を適用する

下記はこのセッションで使う Handout と Question です。お手元においてセッションの動画を視聴して下さい。

W1.S4.Handout

豆腐の「さいの目」切り



- ❖ さいの目切りとは1センチ角の正六面体になる切り方です。
- ❖ 掌に豆腐をのせます。
- ❖ まず包丁を寝かせて水平に2,3本の切り目をいれます。
- ❖ 横・縦に垂直に切ってできあがり。
- ❖ 【注意点】垂直に切るとき、包丁を前後に動かしてはいけません。

10

W1.S4.Question1

実演や実習ができない場合に、「豆腐のさいの目切り」についての一方向ではない授業方法を考えて下さい。

(あなたの考え)



5. SESSION D 「自己紹介」はなぜ重要？

DISCUSSION のセッションでは、「インタラクティブな学び」が実際に体験できるよう、ワークシートに取り組んでから、動画を視聴していただきます。第1回のテーマは「自己紹介」。動画ではまず、これからともに学ぶことになる大学院生の自己紹介を視聴していただきます。さらに、教員の自己紹介が学生の学びに果たす役割について考えてゆきます。皆さんも以下のワークシートに取り組んで自己紹介の役割について考えてみましょう。

W1.D

皆さんが大学で受けた授業で教員はどのような自己紹介をしていたでしょうか。大学の授業における教員の自己紹介が、学生の学びのために果たす役割について下記に箇条書きで書き出してみましょう。







6. セッション課題一覧

ここでは、各セッションで出題された課題を再掲しています。復習等にお役立てください。

W1-1 アクティブ・ラーニングの説明として、適切な説明を全て選んでください。

- 1) 学生が主体的・能動的に学習に取り組めるように、教員が授業方法を設計する。
- 2) 学生が、見たり聞いたりノートをとったりする以上の活動をする。
- 3) 教員が少人数の学生を相手に授業を行う際の方法を指す。
- 4) 学生自身が活動し、その活動について思考することで学ぶ。

W1-2 アクティブ・ラーニングが注目されるようになった背景の説明として、適切な説明を全て選んでください。

- 1) 専門分化が進む社会において、各人が高い専門性を習得しなければならないという認識から、高度な知識やスキルを習得するための受動的な学習形態が注目され始めた。
- 2) 「考え抜く力」や「チームで働く力」を含む「社会人基礎力」（経済産業省）のように、従来の知識伝達型の授業では培えない能力が求められるようになってきた。
- 3) 受験学力を中心とした偏差値を基準として学校・大学を見るのではなく、社会で求められている力をどのように育成しているかが重視されるようになってきた。
- 4) コミュニケーション能力や問題解決能力の重要性が認識される中で、「汎用的技能」（文部科学省）やジェネリックスキルを養える教育方法への注目が高まった。

W1-3 様々なアクティブ・ラーニングの手法の中から自分の授業に合うものを選ぶ際、どのような点を考慮するべきでしょうか？適切な事項を全て選んでください。

- 1) クラスのサイズ
- 2) その手法を行うことによって達成できること
- 3) その手法に割くことができる授業内の時間
- 4) その手法の知名度

W1-4 アクティブ・ラーニングの方法を適用するということについて、適切なものを全て選んでください。

- 1) 「(一方向) 講義」 < 「実演」 < 「実習」 < 「人に教える」の順で学習が定着しやすくなると言われている。
- 2) ちょっとした工夫でアクティブ・ラーニングを実現することができる。
- 3) 初学者レベルの学生同士に「人に教える」プロセスをたどらせることは、主体的な学びにつながらない。
- 4) 「(一方向) 講義」による授業は、学生が主体的に学べる方法の代表である。

7. 参考文献一覧

(セッションにおいて言及された文献等)

- Bonwell, Charles C. & Eison, James A. (1991) Active Learning: Creating Excitement in the Classroom, Jossey-Bass
- Felder, Richard M. & Brent, Rebecca (2009) Active Learning: An introduction. ASQ Higher Education Brief, 2(4)
- 経済産業省 (2006) 社会人基礎力 <http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/> (accessed 2014.10.01)
- Lalley, J. P. & Miller, R. H. (2007) The Learning Pyramid: Does It Point Teachers in the Right Direction? Education, 128 (1), 64-79
- 文部科学省 (2013) 第2期教育振興基本計画
http://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/detail/1336379.htm (accessed 2014.10.01)
- 文部科学省 (2014) 大学教育再生加速プログラム
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/ap/ (accessed 2014.10.01)
- 中央教育審議会 (2008) 学士課程教育の構築に向けて
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm (accessed 2014.10.01)
- 中央教育審議会 (2012) 答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm (accessed 2014.10.01)

(アクティブ・ラーニングについて)

- 河合塾 (2011) アクティブラーニングでなぜ学生が成長するのか——経済系・工学系の全国大学調査からみえてきたこと—— 東信堂
- 河合塾 (2013) 「深い学び」につながるアクティブラーニング——全国大学の学科調査報告とカリキュラム設計の課題—— 東信堂
- 河合塾 (2014) 「学び」の質を保證するアクティブラーニング——3年間の全国大学調査から 東信堂

上記3冊は、Session2でふれられた調査の元の調査をまとめた書籍です。

- 池田輝政、戸田山和久、近田政博、中井俊樹 (2001) 成長するティップス先生——授業デザインのための秘訣集 玉川大学出版部
- 新井和広、坂倉杏介 (2013) アカデミック・スキルズ グループ学習入門——学びあう場づくりの技法 慶応義塾大学出版会

この2冊はインタラクティブな授業作りについてわかりやすく説明されています。

WEEK2 アクティブ・ラーニングの技法

ワークシート目次

1. SESSION 1 Think-Pair-Share
2. SESSION 2 ジグソー法
3. SESSION 3 ポスターツアー
4. SESSION 4 ピア・インストラクション
5. SESSION D グループワーク こんなときどうする？
6. 各セッションの多肢選択課題一覧
7. 参考文献

WEEK2 の目的と目標

目的 多様なグループワークの方法の特徴を理解し 実施方法を修得する

到達目標

次の方法の特徴と実施方法を説明できる

1. Think-Pair-Share
2. ジグソー法
3. ポスターツアー
4. ピア・インストラクション



1. SESSION 1 Think-Pair-Share

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所ではテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W2.S1.Question1

Think-Pair-Share という方法はどのような方法だと思いますか。まずは訳してみましょう。

W2.S1.Question2

Think-Pair-Share は下記の観点から考えるとどれに相当するでしょうか。該当すると思うところを○で囲んでみましょう。

目的に応じて手法を選ぶ観点

- ❖【形態】 1人, ペア, グループ, 全体
- ❖【時間】 ~5分, 15分, 30分, 60分~
- ❖【構成】 単純, 複雑
- ❖【大人数講義】 ☆☆☆

W2.S.1.Question3

グループワークでは、しばしば次のようなことが起こります。

「Think-Pair-Share をすると学生が雑談をはじめてしまいます。普段は真面目によく聞いてくれているのに..」

課題の設定という観点からどうしたらよいか、考えてみましょう。

(あなたの考え)

2. SESSION 2 ジグソー法

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所ではテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W2.S2.Question1

ジグソー法は下記の観点から考えるとどれに相当するでしょうか。該当すると思うところを○で囲んでみましょう。

目的に応じて手法を選ぶ観点

- ❖【形態】 1人, ペア, グループ, 全体
- ❖【時間】 ~5分, 15分, 30分, 60分~
- ❖【構成】 単純, 複雑
- ❖【大人数講義】 ☆☆☆

3. SESSION 3 ポスターツアー

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所をテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W2.S3.Question1

ポスターの共有方法について、ポスターツアーと「全体でグループごとに発表」とを比較したとき、ポスターツアーの長所／短所は何でしょうか？

(あなたの考え)

W2.S3.Question2

ポスターツアーは下記の観点から考えるとどれに相当するでしょうか。該当すると思うところを○で囲んでみましょう。

目的に応じて手法を選ぶ観点

- ❖【形態】 1人, ペア, グループ, 全体
- ❖【時間】 ~5分, 15分, 30分, 60分~
- ❖【構成】 単純, 複雑
- ❖【大人数講義】 ☆☆☆

4. SESSION 4 ピア・インストラクション

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所をテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう

W2.S4.Question1

ピア・インストラクションはいつ頃考案されたものでしょうか。該当すると思うところを○で囲んでみましょう。

1. 1995～2000
2. 2001～2010
3. 2011～2014

W2.S4.Question2

ピア・インストラクションは下記の観点から考えるとどれに相当するでしょうか。該当すると思うところを○で囲んでみましょう。

目的に応じて手法を選ぶ観点

- ❖【形態】 1人, ペア, グループ, 全体
- ❖【時間】 ~5分, 15分, 30分, 60分~
- ❖【構成】 単純, 複雑
- ❖【大人数講義】 ☆☆☆

5. SESSION D グループワーク こんなときどうする？

先週、今週とアクティブ・ラーニングについて学習してきました。アクティブ・ラーニングの成功のためには、事前のグループワークのデザインが非常に重要です。今週のディスカッションでは、トラブルを回避するためにどうデザインすればよいかについて考えてみましょう。

W2.D

以下に、アクティブ・ラーニングとしてグループワークを行う際に生じることが予想される問題の例を2つ挙げてあります。これらのうち一つを選び、これらが生じないようにする予防策と、生じた場合の対応策について考えてみましょう。

【トピック】日本の少子化問題の解決法

【設定】6人編成のグループ

- (A) 話し合いに加わらず、内職をしている学生がいる。
- (B) 一人だけが喋り続け、他の学生が全く発言できない。グループとしての提案はこの学生の意見だけになりそうである。

* 【トピック】は変更不可，【設定】は変更可能です。

(予防策)

(対応策)

6. セッション課題一覧

ここでは、各セッションで出題された課題を再掲しています。復習等にお役立てください。

W2-1 Think-Pair-Share の説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 一人で「考え」その後「ペア」になり、考えたことを共有・意見交換する一連の活動のこと。
- 2) 自分の意見をじっくりと持ってから議論に臨むのではなく、即座に自分の意見をまとめ、他者に語るができるようにするためのトレーニングとして適している。
- 3) まず「ペア」になり、共有・意見交換しながら考え、二人の「考え」を統一させていく活動のこと。
- 4) 「ペア」で作業をしたあと、より大きなグループで議論したり、意見交換をする場合もある。

W2-2 ジグソー法の説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) ジグソー法はジグソーという研究者が考案したグループ活動支援方略であることから、このように呼ばれている。
- 2) ジグソー法とは最初のグループで1つのことを学習したのち、各グループを解体して同一メンバーのいない新グループを再構成し、お互いが最初のグループで身につけた知識を持ち寄り、課題解決などをはかる活動。
- 3) ジグソー法の効果として、「自分しか知らない」知識を持っているという立場に全メンバーを立たせることで、各自に責任感が持たせられるとともに、互いが「一人一人意見が違う」ということを認め、許容する態度を育むことが期待される。
- 4) ジグソー法とはグループのメンバーがそれぞれ異なる様々な知識を持ち寄り、議論することを通して、どの人の知識が正しいのかを考察する活動。

W2-3 ポスターツアーの説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 授業で取り扱うテーマについて、グループで調べ、ポスターにまとめた後、そのポスターを全体で見せ合い、情報の量や正確さを競い合うゲーム的要素が多分に含まれた活動。
- 2) 授業で取り扱うテーマについて、グループで調べ、ポスターにまとめた後、異なるポスターをつかった者同士で新しいグループを構成し、それぞれが自分が作成したポスターについて他のグループ・メンバーに説明していく活動。
- 3) 作業が比較的短時間で終わる活動であるため、授業が予定よりも早く進んだ際などの余った時間で簡単に行うことができる。
- 4) 各ポスターをまわる際にジグソー法的なツアーグループの再構成を行うため、誰もがプレゼンテーションの機会を持つ。

W2-4 ピア・インストラクションについての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) E.マズールによって 15 年以上前に考案された、大規模講義に学生の議論を組み込んだアクティブ・ラーニングの方法である。
- 2) 正答率に関係なく、クイズ形式でテンポ良く授業を進めていくことが肝心である。
- 3) 提示された問題に対して、学生同士で話し合う時間が十分設けられてから最終的な解答を求める形式であり、知識獲得型というよりは深い議論を促す形の授業科目に合致する。
- 4) コンセプトテストと呼ばれる多肢選択問題の質が重要である。

7. 参考文献一覧

(セッションにおいてとりあげた方法に関する文献等)

Mazur, M. (1997) Peer Instruction: A User's Manual, Prentice Hall

ピア・インストラクションについて説明されています。

杉江修治、関田和彦、安永悟、三宅なほみ(編) (2004) 大学授業を活性化する方法 玉川
大学出版部

ジグソー法が実践例として説明されています。

エリザベス＝バークレイ、パトリシア＝クロス、クレア＝メジャー著 安永悟 監訳(2009)
協同学習の技法——大学教育の手引き ナカニシヤ出版

Think-Pair-Shareをはじめとする30の方法が所収されています。

(アクティブ・ラーニング全般に関する文献等)

バーバラ・グロス・デイビス著 香取草之助監訳、光澤舜明、安岡高志、吉川政夫訳 (2002)
授業の道具箱 東海大学出版会

“良い授業”をどうやって実施するかについて書かれた 定番といっても良い本です。

池田輝政、戸田山和久、近田政博、中井俊樹 (2001) 成長するティップス先生——授業デ
ザインのための秘訣集 玉川大学出版部

新井和広、坂倉杏介 (2013) アカデミック・スキルズ グループ学習入門——学びあう場づ
くりの技法 慶応義塾大学出版会

この2冊はインタラクティブな授業作りについてわかりやすく説明されています。

WEEK3 学習の科学

ワークシート目次

1. SESSION 1 モチベーション(1)
2. SESSION 2 モチベーション(2)
3. SESSION 3 熟達への道
4. SESSION 4 練習とフィードバック
5. SESSION D 部分スキルへの分解
6. 各セッションの多肢選択課題一覧
7. 参考文献
8. SKILL SESSION 導入編 2: 伝わる喋り方

WEEK3 の目的と目標

目的 学びに関わる「モチベーション」および「学生の熟達」について理解し学びを促す授業のあり方を修得する

到達目標

1. モチベーションの維持・喚起の鍵となる「価値」「予期」「環境」のそれぞれについて説明できる
2. 学生の熟達およびその支援方法について説明できる
3. 効果的な練習とフィードバックについて説明できる





1. SESSION 1 モチベーション(1)

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所ではテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W3.S1.Question1

最近、一番高いモチベーションを持って行っている／いたことは何ですか？

W3.S1.Question2

次の目標に対して、どのような価値を示してあげられますか？

【目標】自転車に乗れる

2. SESSION 2 モチベーション(2)

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所をテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W3.S2.Question1

次の目標に対して、どのように「予期」を高めてあげられますか？

【目標】自転車に乗れる

W3.S2.Question2

次の目標に対して、どのような協力的な環境が考えられますか？

【目標】自転車に乗れる



3. SESSION 3 熟達への道

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所をテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W3.S3.Question1

専門家は教えるのも上手であると思いますか？理由も示しながらあなたの考えをまとめてみましょう。

4. SESSION 4 練習とフィードバック

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所をテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W3.S4.Question1

ある知識やスキルの修得の場面において、効果のあがった練習にはどのような特徴がありましたか？あるいは、逆に無意味だと感じた練習にはどのような特徴がありましたか？いずれかでよいので、挙げてみましょう。

W3.S4.Question2

ある知識やスキルの修得の場面において、役に立ったフィードバックはどのような特徴を持っていましたか？あるいは、逆に無意味だと感じたフィードバックはどのような特徴でしたか？いずれかでよいので、挙げてみましょう。

5. SESSION D 部分スキルへの分解

今週のセッションの中で、学習者の熟達を手助けするためには、複雑なタスクをコンポーネントスキルに分解するのが重要だということを学びました。ここでは、自転車の運転を例に、スキルの分解にチャレンジしてみましょう。

W3.D

小学生が、自転車の運転を練習していると想像して下さい。こどもの熟達を手助けするために「不自由なく自転車に乗る」という複雑なタスクを部分的なスキル、つまりコンポーネントスキルに分解するということを考えてみましょう。

自転車に乗るために必要なコンポーネントスキルを、思いつく限り書き出してみましょう。そして、「最初に修得すべきスキル」から順に並べてみましょう。

6. セッション課題一覧

ここでは、各セッションで出題された課題を再掲しています。復習等にお役立てください。

W3-1 モチベーションについての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 「自転車に不自由なく乗る」という目標に対して、「自転車に乗ることで徒歩よりも短時間で遠くまでゆける」というのは道具的価値ととらえることができる。
- 2) 高いモチベーションは、「目標の主観的価値」「予期」「環境」の3つに良い影響を与える。
- 3) モチベーションは、学生の学習行動の方向、強度、持続性、質に影響をおよぼす。
- 4) モチベーションを理解するうえで重要な、「目標の主観的価値」については、「達成価値」、「内発的価値」、および「道具的価値」に分類して考察することができる。

W3-2 モチベーションを高めるうえで重要な「予期」と「環境」についての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 自分にはその目標を達成することができるだろうという「予期」を考えるうえで、特定の行動をとっていれば望ましい結果がもたらされるという「ポジティブな結果予期」と、自分は望ましい結果に向かって行動することができるだろうという「効力予期」の2点に焦点を当てることが重要である。
- 2) 学習者のモチベーションを高めるためには、目標に向かって何をすればよいかを表した道しるべを提示するとともに、何か困ったことがあればサポートするという体制や構えを示すことが有効である。
- 3) 学習者のモチベーションを上げるために教授者ができることとして、学習者が憧れ、社会の目も引くような高い目標を設定すること、そして、言葉や手を差し出しすぎないように学習者と距離を置くことが挙げられる。
- 4) モチベーションを上げるためには、一般に協力的な環境に置かれるよりも、自分ひとりでやるしかない状況に追い込まれることの方が効果的である。

W3-3 学生の熟達とその支援方法についての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 熟達とは、特定の分野における高度な能力を獲得することである。
- 2) 学生の熟達の支援として教授者ができることは、まず、あるスキルを構成する部分的なスキルを特定しそれらを獲得するための練習をデザインすることである。
- 3) 熟達に至るための要素は、部分スキルを獲得すること、そして、それらの細かなスキルを瞬時に使えるようになること、の2点である。
- 4) 専門家は「意識的有能」という最も熟達した位置にあるため、初心者熟達に導くのが、当然うまくできるはずである。



W3-4 効果的な練習とフィードバックについての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 効果的な練習とは、初心者や上級者にかかわらず、基礎的なスキルを繰り返し確認し続けることである。
- 2) 練習とフィードバックを適切にデザインし、実施することによって、学習の効果を高めることができる。
- 3) フィードバックをする際には、相手がそれを活用する可能性が最も高いタイミングと頻度で与えると効果的である。
- 4) 学習効果を高めるためには、一般に、練習が一通り終わり、忘れた頃にフィードバックを与えるとよい。

7. 参考文献一覧

(セッションにおいてとりあげたトピックに関する文献等)

スーザン・A・アンブローズほか著 栗田佳代子訳 (2014) 大学における「学びの場」づくり：よりよいティーチングのための七つの原理 玉川大学出版部
今週扱ったトピックは本書籍の3,4,5章に詳しく解説があります。

(モチベーションなどの文献等)

J.M.ケラー著 鈴木克明監訳 (2010) 学習意欲をデザインする 北大路書房
学生の学びを喚起するためのARCSモデルを中心に解説されています。

ロバート・パイク著 中村文子訳 (2008) クリエイティブ・トレーニング・テクニク・ハンドブック 杉江修治、関田和彦、安永悟、三宅なほみ(編) (2004) 大学授業を活性化する方法 日本能率協会マネジメントセンター

研修を想定した本ですが、参加者主体のプログラムを組むための工夫が説明されています。

8. SKILL SESSION 導入編2：伝わる喋り方

W3.Skill

以下の書き言葉を、分かりやすい話し言葉に直して、1分間でプレゼンテーションしてみましょう。

ミュージカルとは、音楽・歌・芝居・ダンスを統合させた演劇形式である。ユーモア、哀しみ、愛、怒りといった様々な感情的要素と物語を組み合わせ、言葉・音楽・動き・その他エンターテインメントのあらゆる技術を統合したものである」

WEEK4 90分の授業をデザインしよう

ワークシート目次

1. SESSION 1 クラスデザインの意義と ADDIE モデル(1)
2. SESSION 2 クラスデザインの意義と ADDIE モデル(2)
3. SESSION 3 クラス構成の基本型
4. SESSION 4 デザインシートの利用
5. SESSION D クラス・デザイン演習
6. 各セッションの多肢選択課題一覧
7. 参考文献

WEEK4の目的と目標

目的 学びを深める授業実施に向けてそのデザインの意義と方法を理解する

到達目標

1. クラスデザインの意義を説明できる
2. ADDIE モデルを使いデザインの流れを説明できる
3. クラス構成の基本型をガニエの9教授事象を基礎として説明できる
4. デザインシートを使い授業をデザインできる





1. SESSION 1 クラスデザインの意義と ADDIE モデル (1)

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所ではテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W4.S1.Question1

クラス(90分の授業)をデザインすることの意義は何でしょう？

W4.S1.Question2

クラスのデザインを始める際に、どのような情報が必要ですか？例えば、「来年度に授業を一コマ教えて欲しい」と頼まれたら、どのような情報を事前に知りたいでしょうか。

W4.S1.Question3

クラスをデザイン(設計)するとき、デザインするのは具体的にはどのような要素でしょうか？



2. SESSION 2 クラスデザインの意義と ADDIE モデル (2)

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所ではテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W4.S2.Question1

あなたの専門領域では、どのような「開発」の作業がありますか？

3. SESSION 3 クラス構成の基本型

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所をテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W4.S3.Question1

下記はガニエの9教授事象です。それぞれ「導入」「展開」「まとめ」に対応させるとすれば、どうなるでしょうか。3つに分類してみましょう。

1. 学習者の注意を喚起する
2. 学習目標を知らせる
3. 前提条件を確認する
4. 新しい事項を提示する
5. 学習の指針を与える
6. 練習の機会を設ける
7. フィードバックをする
8. 学習の成果を評価する
9. 学習の保持と転移を促す



4. SESSION 4 デザインシートの利用

次のページには **W4.S4.Handout1,Handout2** として指定されているデザインシートがそれぞれ各 2 ページに渡って掲載されています。適宜手元において学習を進めて下さい。なお、Handout1 については、実際に書き込みのできる Excel バージョンも用意しますので、適宜ご利用下さい。ダウンロード方法などについては、お知らせメールをご覧ください。



W4.S4.Handout1

名前 ()

基本情報

学年		科目名
受講者数	名	
教室		

このクラスのタイトル (トピック, テーマ)

第 回

このクラスの目的

--

このクラスの達成目標	対応する評価方法
<ul style="list-style-type: none">•••	<ul style="list-style-type: none">•••



スケジュール

経過時間	所要時間	構成	内容	詳細	方法	学生の活動	使用資料 その他

合計 0

W4.S4.Handout2

名前 ()

基本情報

学年	学部3,4年 大学院修士課程・博士課程	科目名
受講者数	30名	量的データ解析法
教室	スクール形式	

このクラスのタイトル (トピック, テーマ)

第 回	偏相関と重回帰分析：重回帰分析の仕組み
------------	---------------------

このクラスの目的

重回帰分析の仕組みを理解する

このクラスの達成目標	対応する評価方法
<ul style="list-style-type: none"> 重回帰分析をベクトルで理解し説明できる 従属変数と独立変数の関係が重相関係数に及ぼす影響について説明できる 多重共線性の発見法と解決方法を説明できる 	<ul style="list-style-type: none"> モデルの完成, 翌週の小テストによる確認, 期末テスト モデルによる相互説明, 翌週の小テストによる確認, 期末テスト 翌週の小テストによる確認, 期末テスト

スケジュール

経過時間	所要時間	構成	内容	詳細	方法	学生の活動	使用資料その他
	15	開始前	授業準備	配布資料のセット 到達目標の板書 TAとの打ち合わせ			
0:00 0:05	5 10	導入1	復習	口頭による前回の復習 小テスト確認	説明 教え合い	2-3人グループで答合	小テストプリントN0.12
0:15 0:17	2 3	導入2	概要説明 目標	授業の見通し説明 これまでの内容との接続 到達目標の提示	説明 説明		ノート
0:20	15	本論1	重回帰分析 ベクトル表現	式の解説 通常の回帰式からのベクトルへの拡張	説明+板書 質問	Q1 重回帰式 Q2 予測変数の表現の特徴 Q3 重相関係数について	ノート
0:35	20	本論2	重回帰モデル モデル作製	重回帰モデルの模型作り 1. x_1, x_2, y をつくる 2. 白紙にのせる 3. e の決定 4. \hat{y} の決定 5. b_1, b_2 の決定	演習(模型作り)	乾麺と紙粘土, モールを使い重回帰式モデルを作成	乾麺 紙粘土 モール 白紙
0:55 1:02	7 7	本論3	重相関係数の特徴	従属変数との相関と重相関係数 独立変数間の相関と重相関係数	模型を使いながら説明+板書+質問	模型を動かしながら理解 Q それぞれ重相関係数の変化を推測	作った模型とノート
1:09	16	本論4	多重共線性	多重共線性について ・特徴 ・対策	模型を使いながら説明+板書+質問	模型を動かしながら理解	作った模型とノート
1:25	5	まとめ	まとめ	全体のまとめ 宿題の指示 次回のプレビュー	説明		
1:30							

合計 90

5. SESSION D クラス・デザイン演習

WEEK4 では、「導入・展開・まとめ」の構造を意識して授業をデザインすることの重要性を学びました。本ワークでは、この構造に注意して、実際に授業をデザインしてみましょう。

W4.D

WEEK2 で学んだジグソー法について、授業をデザインすることを考えます。以下の目的・目標に合った授業をデザインしてみましょう。

目的 ジグソー法を理解し利用できる

目標 ジグソー法の特徴を説明できる

ジグソー法を利用できる

あなたなら「導入」「展開」「まとめ」にどのような内容を盛り込みますか。以下の枠の中にそれぞれ書き込んでみましょう。必要に応じてガニエの9教授事象を参照してみましょう。

さらには、発展課題として「授業デザインシート」を使ってジグソー法についての授業デザインを完成させてみましょう

(導入)

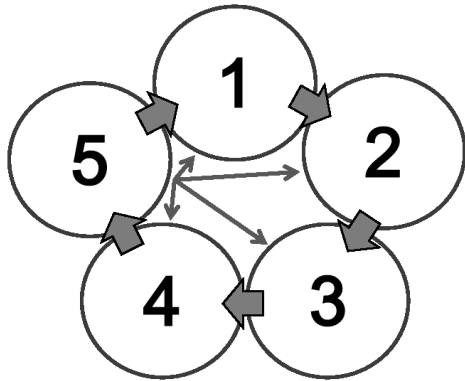
(展開)

(まとめ)

6. セッション課題一覧

ここでは、各セッションで出題された課題を再掲しています。復習等にお役立てください。

W4-1-1 下図は、ADDIE モデルを表します。1～5に入る5つの要素として、適切な順序で並べられたものを選んでください。



- 1) 1: 開発、2: 設計、3: 実施、4: 評価、5: 分析
- 2) 1: 設計、2: 実施、3: 評価、4: 分析、5: 開発
- 3) 1: 実施、2: 分析、3: 評価、4: 設計、5: 開発
- 4) 1: 分析、2: 設計、3: 開発、4: 実施、5: 評価

W4-1-2 クラスデザインについての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 授業の目標を設定する際には、学生のモチベーションが上がるように気持ちを高める書き方を意識し、細かく具体的な記述は避けるとよい。
- 2) 授業を設計する際には、相手に合った教授内容の質と量、教授方法、ワークや課題、構成、およびタイムラインを考える。
- 3) 丁寧にクラスをデザインすることで、授業時間を効率的に利用し、教授手法を計画的に活用することができるほか、授業改善や知識・スキルの共有も行いやすくなる利点がある。
- 4) クラスをデザインするうえで、学習者の特性や知識レベル、教室環境などを知っておくことは重要である。

W4-2 ADDIE モデルについての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) ADDIE モデルの「開発」は、実際に授業で使用する教材などを準備・作成する段階を指す。
- 2) 「実施」は、ADDIE モデルの第1段階であり、「評価」、「設計」、「分析」、「開発」などを行うよりも先にひとまず初回の授業などを実施しておかなければならない。
- 3) ADDIE モデルは、1コマ分のクラスをデザインするうえでは有効なツールだが、1学期間のコース全体をデザインするには、別モデルを活用した方がよい。
- 4) ADDIE モデルにおいて「評価」は、次に活かすことが重要であり、これを「close the loop」とよぶ。

W4-3 クラスをデザインするうえで留意すべきポイントについて、適切なものを全て選んでください。

- 1) クラスのはじめには、学習者の注意を喚起したり、学習目標を明確に伝えることで、学習者の集中力や意欲に繋げていく。
- 2) クラスの中盤では、新しい学習事項を示したあとに、それを練習する機会を設け、フィードバックも適宜行っていくことで、学習者はその新しい学習内容を意味づけし、習得できるようになる。
- 3) 各クラスは、「起承転結」を意識して、4つの段階にわけた構成でデザインする。
- 4) クラスの終盤では、新しい学習事項をどれだけ習得できたのか、学習の成果を必ずテスト形式で評価したうえで、次回から取り扱う全く異なる学習事項についての予習を求める。

W4-4 クラスデザインシートについての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) クラスデザインシートには、授業の基本情報、回とタイトル、目的・目標、評価方法、そしてスケジュールを記入する。
- 2) シートを活用してクラスデザインを行うことで、授業計画の構造的可視化、授業時間の効率的利用、教授手法の計画的活用、授業改善、知識やスキルの共有などが行いやすくなる、という利点がある。
- 3) スケジュールの欄に書いた時間配分やワークの内容は、何があっても守らなければならない。
- 4) クラスデザインシートは、教員と学生間の一種の契約書の役割を果たすものであり、当然ながら学生に配布する必要がある。

7. 参考文献一覧

(セッションにおいてとりあげたトピックに関する文献等)

ロバート・ガニエ, ウォルター・ウェイジャー, キャサリン・ゴラス, ジョン・ケラー (鈴木克明, 岩崎信監訳) (2004) 『インストラクショナルデザインの原理』北大路書房
9 教授事象のガニエの著作です。

(クラスデザインに関する文献等)

成長するティップス先生 第4章 日々の授業を組み立てる

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tips/basics/design/index.html>

ウェブサイトでわかりやすく解説されています。

島宗理 (2004) 『教師のためのルールブック インストラクショナルデザイン』米田出版
授業設計について各項目が短くまとめられおり, わかりやすいです。

エドワード・F・レディッシュ 日本物理教育学会 (2012) 『科学をどう教えるか』丸善
理系科目の教え方について丁寧に解説されています。

夏目達也・近田政博・中井俊樹・齋藤芳子 (2010) 『大学教員準備講座』玉川大学出版部
授業の他, タイトルの通り, 大学教員になるための準備になるような知識やスキルが説明されています。

WEEK5 もっと使えるシラバスを書こう

ワークシート目次

1. SESSION 1 もっとある！シラバスの役割
2. SESSION 2 目的と目標の設定
3. SESSION 3 授業スケジュールのデザイン
4. SESSION 4 授業の構造を可視化する
5. SESSION 5 評価方法の書き方
6. SESSION D 目標を設定してみよう
7. 各セッションの多肢選択課題一覧
8. 参考文献

WEEK5の目的と目標

目的 学生の学習を促すためにもっと使えるシラバスの書き方を習得する

到達目標

1. シラバスの定義と多様な役割を説明できる
2. 適切に目的と目標を設定できる
3. 効果的にスケジュールをデザインできる
4. グラフィック・シラバスの意義と活用方法を説明できる
5. 適切に評価方法を書ける





1. SESSION 1 もっとある！シラバスの役割

この授業では、シラバスについてとりあげます。お手持ちのシラバス、あるいは、ご自身が将来教えることになりそうな科目のシラバスをウェブサイトなどで検索し、お手元にご用意下さい。

例えば、下記のようなサイトで学部1, 2年生対象の科目を検索してみるとよいでしょう。

- ❑ 早稲田大学 <https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>
- ❑ 大阪大学 https://koan.osaka-u.ac.jp/syllabus_ex/campus
- ❑ 中央大学 <http://syllabus.chuo-u.ac.jp/syllabus/>
- ❑ 千葉大学 <http://www.chiba-u.ac.jp/student/syllabus/index.html>
- ❑ シラバス・データベース <http://www.syllabus-db.com/index.html>

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所ではテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W5.S1.Question1

皆さんは今までどのようにシラバスを使ってきましたか？



2. SESSION 2 目的と目標の設定

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所をテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W5.S2.Question1

お手元にあるシラバスに設定されている目標を確認してみましょう。それぞれ認知的領域、精神運動的領域、情動的領域のどれにあたるでしょうか。



3. SESSION 3 授業スケジュールのデザイン

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所をテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W5.S3.Question1

学習内容をふまえて、お手元のシラバスのスケジュールを確認してみましょう。必要に応じて書き直してみましょう。



4. SESSION 4 授業の構造の可視化

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所をテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W5.S4.Question1

学習内容をふまえて、下記のスペースにお手元のシラバスの構造を可視化してみましょう。

5. SESSION 5 評価の書き方

下記はこのセッションで使う Question と Handout です。動画において適宜使用箇所です。ロープがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W5.S5.Question1

学習内容をふまえて、お手元のシラバスの評価方法を確認してみましょう。必要に応じて書き直してみましょう。

W5.S5.Handout1

4. 評価情報の例



到達目標

- ① 職場における自己啓発の重要性とその手順を説明できる。
- ② 職場におけるOJTのコツを説明できる。
- ③ 職場における新人研修プログラムを作ることができる。
- ④ 職場で使えるマニュアルを作ることができる。

評価情報

第1部 + 第2部テスト：15%（○月△日実施）
 第3部テスト：10%（△月×日実施）
 新人研修プログラム一式：20%（×月□日提出）
 マニュアル：20%（□月△日提出）
 受講態度：5%、出席点：30%

W5.S5.Handout2

項目		被評価者氏名
目標達成行動	真剣 1. 課題（やるべきこと）に真剣に取り組んでいた	
	的確 2. 課題（やるべきこと）をしっかりと理解していた	
	主張 3. 自分の意見を積極的に主張していた	
	役割 4. 与えられた役割をしっかりと果たそうとしていた	
	本題 5. 話題がそれたとき本題に戻そうとしていた	
	納得 6. 妥協ではない納得した結論を出そうと努力していた	
集団維持行動	傾聴 7. 相手の意見をしっかりと聴き、理解しようとしていた	
	仲間 8. グループにとけこもうとしていた	
	笑顔 9. つまらなそうな表情ではなく、笑顔で皆と接していた	
	援助 10. 消極的なメンバーに声をかけていた	
	同意 11. 優れた意見に共感・同意・賛成を表明していた	
	鼓舞 12. 話し合いが楽しくなるように場を盛り上げていた	

6. SESSION D 目標を設定してみよう

今週はシラバスについて学び、目標の書き方についても学習しました。このワークでは「ダメな目標」を改善する作業を通じて、目標の書き方をより実践的に学びましょう。

W5.D

ここに2つの「ダメな目標」の例があります。

(A)「基礎情報科学」

目標 図書館における情報検索方法について学ぶと同時に、情報リテラシーの基本を理解する。ジグソー法の特徴を説明できる

(B)「哲学概論」

目標 哲学の世界にどっぷり浸る経験を通して、考えることに楽しさについて講義する。

どのような目標を設定すれば、「もっと使えるシラバス」になるでしょうか。これらのいずれかを選択して、次のことに取り組んでみましょう。

- この目標の問題点を挙げましょう。
- 問題点を踏まえて改善された目標を考えてみましょう。

あなたが選んだ目標： (A) or (B)

(問題点)

(改善案)

7. セッション課題一覧

ここでは、各セッションで出題された課題を再掲しています。復習等にお役立てください。

W5-1 シラバスの役割の説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 学生が講義の履修を決める際の参考になる。
- 2) シラバス作成により、15回のクラスを有するコース全体のデザインができる。
- 3) 契約関係を教員と学生の間置き、緊張感と距離感をもたせる。
- 4) 学習効果を高めることができる。

W5-2 授業の目的・目標の説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 授業の目的は、「なぜこれを学ばなければならないのか？」と学生に問われたときの答えを示すつもりで書くとよい。
- 2) 授業の目的を書く際には、あえて主語を書かず、社会全体にとっての広い意義を書くことよい。
- 3) 授業の目標は、目的が具体化されたものである。
- 4) 授業の目標は、いわゆる「ジャンプすれば届く距離」に設定するとよい。

W5-3 授業概要・スケジュールの書き方の説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) スケジュールを書く際には、成績への影響が少ない回を欠席しようなどという計画を学生が立てにくいように、課題などの情報は載せておかない方がよい。
- 2) 授業概要としては、授業で扱う内容を簡潔に記述するとよい。
- 3) スケジュールを決めるうえでは、他の科目とのバランスを調整しつつ、学生の知識水準や動機付けを把握し、効果的な学習促進を意識することが重要である。
- 4) 学生の関心や学習の進度に合わせた授業をするためには、スケジュールを書き入れる欄などには「未定」と書いておくのがよい。

W5-4 グラフィック・シラバスについての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) グラフィック・シラバスの持つ効果としては、注意喚起、概念理解促進、および記憶の定着などが挙げられる。
- 2) 初学者は、体系的な知識の各部については理解できるが、それを系統的・総合的に理解することは難しいため、教員が体系的な知識の全体像を図式化して提示することが望ましい。
- 3) グラフィック・シラバスに描くことができるのは脱構造化された知であるから、より構造化された形の知をグラフィックではないシラバスに記し、合わせて配布する必要がある。
- 4) グラフィック・シラバスは、教員が初回の授業までに完成させておく必要があり、授業期間中に修正・変更することはいかなる場合も許されない。



W5-5 授業の評価方法の記し方についての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 評価方法は、具体的であるほど自学自習を促すと言われている。
- 2) 評価方法を示す際には、成績評価の配分割合やレポートの提出期限は記した方がよいが、採点基準やテストの内容を明示することは、避けなければならない。
- 3) 授業の目的に対応させることを意識して、大まかな学習成果を評価する基準・方法を記述するのがよい。
- 4) 「学修の成果に係わる評価」に関しては、「その基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う」ことが、大学設置基準第 25 条の 2 により義務づけられている。

8. 参考文献一覧

(セッションにおいてとりあげたトピックに関する文献等)

Grunert, Judith (1997) *The Course Syllabus*, Bolton, MA: Anker Publishing
シラバスについて丁寧にかけられています。

Nikson, B. Linda (2007) *The Graphic Syllabus and the Outcomes Map: Communicating your course*, San Francisco, Jossey-Bass
グラフィックシラバスについて丁寧にかけられています。

(シラバスに関する文献等)

佐藤浩章編 (2010) 『大学教員のための授業方法とデザイン』 玉川大学出版部

WEEK6 学びを促す評価

ワークシート目次

1. SESSION 1 評価の目的
2. SESSION 2 評価を設計する際のポイント
3. SESSION 3 ルーブリック(1)
4. SESSION 4 ルーブリック(2)
5. SESSION D ルーブリックを使う
6. 各セッションの多肢選択課題一覧
7. 参考文献

WEEK6 の目的と目標

目的 学生の学びを評価するための基礎知識を得て、評価の意義を理解し、活用できるようになる

到達目標

1. 評価の意義について説明できる
2. 形成的評価と総括的評価の特徴について説明できる
3. 評価の“評価”において重要な観点を説明できる
4. ルーブリックの基本構成を説明できる
5. ルーブリックの作成手順を説明できる





1. SESSION 1 評価の目的

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所をテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W6.S1.Question1

- | | | |
|-------------|-----|-----|
| 1. 学期終了時に実施 | 総括的 | 形成的 |
| 2. 成績に含めない | 総括的 | 形成的 |
| 3. 発展的課題を含む | 総括的 | 形成的 |



2. SESSION 2 評価を設計する際のポイント

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所をテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W6.S2.Question1

評価をするための方法としてはどのようなものがありますか。過去に受けた授業などでの評価方法を思い出してあげてみましょう。

W6.S2.Question3

センター試験は4つの評価観点からみてどうでしょう。4つの評価観点の高低について考えてみましょう。

3. SESSION 3 ルーブリック (1)

下記はこのセッションで使う Handout です。動画において適宜使用箇所をテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W6.S3.Handout

グループによるオムニバス講義の模擬授業を評価するためのルーブリック			
グループ ()		年 月 日	
	Excellent	Good	Developing
構成	全体として統一感がしっかりとあり、よい構成であった	全体として統一感をもたせようとした努力がみられた構成であった	全体として統一感に乏しく、各トピックがばらばらな印象を受けた
レベル設定	初学者にとって、全体が「少し手を伸ばせば届くレベル」の適切な教授内容であった。	初学者にとっておおむね「少し手を伸ばせば届くレベル」であったが、一部高度なところ、あるいはやさしすぎるところがあった。	初学者にとって全体が高度すぎる、もしくは、極端にやさしすぎる内容であった。
学習意欲の喚起	授業内容についてさらに自分で勉強してみたいと興味を持った	授業内容について授業中はとも興味をもって聞けて満足したが自分でさらに勉強しようとは思わない	授業内容について特に興味をそそられることはなかった
相互作用の機会	学生個人に質問を投げかけたり、全体に問いかけたりするなど相互作用の機会をたくさん作り、学生を巻き込むことに成功していた	学生個人に質問を投げかけたり、全体に問いかけたりするなど相互作用の機会をそこそこ作っていた	学生個人に質問を投げかけたり、全体に問いかけたりするなど相互作用の機会がほとんどなかった
熱意	内容に対する愛、情熱が授業の初めから終わりまでずっと伝わってくる	内容に対する愛、情熱がところどころ伝わってくる	内容に対する愛、情熱があまり感じられない
メディアの利用	板書、パワーポイント、配布資料などが特性を活かして活用され、学習の促進に役立っていた	板書、パワーポイント、配布資料などについて慣れていないところがみられたが、おおむね学習の促進に役立っていた	板書、パワーポイント、配布資料などについて慣れておらず、学習が妨げられた
実践性	すぐにそのまま使えるコンテンツである	少し工夫すれば使えると思われる	このままでは使えないと思われる
コメント用スペース			



4. SESSION 4 ルーブリック(2)

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所をテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W6.S4.Question2

評価基準は“評価尺度×評価観点”の数だけあります。評価基準をどのような順序でつくとよいと思いますか？考えてみましょう。

5. SESSION D ルーブリックを使う

今週は評価について学びました。このワークでは予めルーブリックでレポート課題を採点していただき、ルーブリックのメリット・デメリットについて考えてみましょう。

W6.D

次のページにアクティブ・ラーニングに関するレポート課題とレポート例、それに採点のためのルーブリックがあります。ルーブリックを活用して、レポート課題を採点してみましょう。具体的には、レポート課題を読み、各観点の該当する評価基準に○をつける、という作業になります。採点が終わったら、実際の採点作業を通じて感じたことも含め、ルーブリックを使用することのメリットおよびデメリットについて考えてみましょう。

また、改善案がある場合には、掲示板で共有してみてください。

(メリット)

(デメリット)

以下の課題に対する、4つのレポートを採点してください。

課題：「大学の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるべきである」という主張に賛成か、反対か。いずれかの立場を選び、根拠となる文献を参照・引用しながら論じなさい。
参考文献表を覗いて、150～300字で論じること。

レポート1

私は、「大学の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるべきである」という主張に賛成である。

その理由は、佐藤（2010）が指摘するように、「学生が主体的に考えるきっかけを作る」「能動的な参加の機会を持たせる」「競争を促すことで、積極性を引き出すことができる」というメリットがあるからである（p. 17）。また、バークレイ・クロス・メジャー（2009）は、グループで行うアクティブ・ラーニングの一つである協同学習に関して、学習効果と学生の満足度の両面から、その効果の高さを示す多くの実証研究があることを指摘している（pp. 11-16）。

参考文献

佐藤浩章編『大学教員のための授業方法とデザイン』、玉川大学出版部、2010年
エリザベス＝バークレイ、パトリシア＝クロス、クレア＝メジャー『共同学習の技法：大学教育の手引き』、安永悟監訳、ナカニシヤ出版、2009年

レポート2

佐藤(2010)が史的するように、「学生が主体的に考えるきっかけを作る」「能動的な参加の機会を持たせる」「競争を促すことで、積極性を引き出すことができる」というメリットがある（p. 17）。だから、アクティブ・ラーニングを取り入れるといいと思います。

また、私は先生が離すばかりの授業だとずっと寝ていた。でも、一度だけ教育実習の先生が来たときにしたグループ活動の内容はイマでも覚えているから、アクティブ・ラーニングは効果があると思います。

参考文献

佐藤浩章編（2010）『大学教員のための授業方法とデザイン』、玉川大学出版部、2010年

レポート3

私は、大学の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるべきだと思う。

その理由は、学生の学びを深めるには、アンブローズほか(2014, 第3章)が言うように、学生のモチベーションを高めることが重要だからである。モチベーションを高めるには、学生にとっての「主観的価値」の高い目標、すなわち学生自身にとって重要な目標を立てることが重要である。また、実際に授業を履修することで、その価値を達成できるというポジティブな結果予期を持たせることと、協力的な環境を作ることも重要である。このような仕方、学生のモチベーションを高めるべきである。

参考文献

スーザン・A. アンブローズ、マイケル・W. ブリッジズ、ミケーレ・ディピエトロ、マーシャ・C. ラベット、マリー・K. ノーマン『大学における「学びの場」づくり：よりよいティーチングのための7つの原理』、栗田佳代子訳、玉川大学出版部、2014年

レポート4

私はこれまで、アクティブ・ラーニング形式の授業を受けたことがない。しかし、ぜひ受けてみたかったと感じている。特に、初年次に受けた選択科目の教育思想の授業では、先生の話が全く理解できず、寝てしまうことも多かった。テストでも失敗し、単位を得ることもできなかった。あの授業の問題点は、アクティブ・ラーニングを取り入れなかったことにある。初等・中等教育ではなおさらである。

私は、中学校の教員を目指している。中学での授業には、大学以上に、飽きさせないための工夫が必要である。このため、アクティブ・ラーニングの手法についてこれからも学んで、授業を改善していきたい。

採点用のルーブリック

下記は評価に用いるルーブリックです。各レポート課題を読み、例えば、構成の「立場の表明」に関して、理想的／標準的／要改善のいずれかの評価基準に照らし、該当する基準に○をつけてゆきます。（このルーブリックには各評価尺度に点数を付していませんので、○をつけるところで採点作業は終わりです。） レポート課題の数だけ、つまり4枚のルーブリックが用意されています。

レポート 1 採点用

課題 「大学の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるべきである」という主張に賛成か、反対か、いずれかの立場を選び、根拠となる文献を参照・引用しながら論じなさい。参考文献を除いて、150字～300字で論じること。

観点		理想的	標準的	要改善
構成	立場の表明	冒頭または末尾に立場に関する記述がある。	冒頭または末尾以外に立場に関する記述がある。	立場に関する記述がない。
	立場をとる根拠	立場をサポートする根拠となる文献が2つ以上示されている。	立場をサポートする根拠となる文献が1つ示されている。	立場をサポートする根拠となる文献が示されていない。もしくは、そもそも立場に関する記述がない。
	立場のサポートとは関係のない記述	立場のサポートとは関係のない記述がない。	立場のサポートとは関係のない記述が全体の2割未満である。	立場のサポートとは関係のない記述が全体の2割以上である。
表現	誤字・脱字	誤字・脱字、文法上の誤りがない。	誤字・脱字、文法上の誤りが1～2カ所ある。	誤字・脱字、文法上の誤りが3カ所以上ある。
	文体		常体（だ、である調）もしくは敬体（です、ます調）で統一されている。	常体と敬体が混じっている。
書誌情報			引用文献の書誌情報が全て書かれている。	引用文献の書誌情報が一部しか書かれていない。もしくは、全く書かれていない。

レポート2 採点用

課題 「大学の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるべきである」という主張に賛成か、反対か、いずれかの立場を選び、根拠となる文献を参照・引用しながら論じなさい。参考文献を除いて、150字～300字で論じること。

観点		理想的	標準的	要改善
構成	立場の表明	冒頭または末尾に立場に関する記述がある。	冒頭または末尾以外に立場に関する記述がある。	立場に関する記述がない。
	立場をとる根拠	立場をサポートする根拠となる文献が2つ以上示されている。	立場をサポートする根拠となる文献が1つ示されている。	立場をサポートする根拠となる文献が示されていない。もしくは、そもそも立場に関する記述がない。
	立場のサポートとは関係のない記述	立場のサポートとは関係のない記述がない。	立場のサポートとは関係のない記述が全体の2割未満である。	立場のサポートとは関係のない記述が全体の2割以上である。
表現	誤字・脱字	誤字・脱字、文法上の誤りがない。	誤字・脱字、文法上の誤りが1～2カ所ある。	誤字・脱字、文法上の誤りが3カ所以上ある。
	文体		常体（だ、である調）もしくは敬体（です、ます調）で統一されている。	常体と敬体が混じっている。
書誌情報			引用文献の書誌情報が全て書かれている。	引用文献の書誌情報が一部しか書かれていない。もしくは、全く書かれていない。

レポート3 採点用

課題 「大学の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるべきである」という主張に賛成か、反対か、いずれかの立場を選び、根拠となる文献を参照・引用しながら論じなさい。参考文献を除いて、150字～300字で論じること。

観点		理想的	標準的	要改善
構成	立場の表明	冒頭または末尾に立場に関する記述がある。	冒頭または末尾以外に立場に関する記述がある。	立場に関する記述がない。
	立場をとる根拠	立場をサポートする根拠となる文献が2つ以上示されている。	立場をサポートする根拠となる文献が1つ示されている。	立場をサポートする根拠となる文献が示されていない。もしくは、そもそも立場に関する記述がない。
	立場のサポートとは関係のない記述	立場のサポートとは関係のない記述がない。	立場のサポートとは関係のない記述が全体の2割未満である。	立場のサポートとは関係のない記述が全体の2割以上である。
表現	誤字・脱字	誤字・脱字、文法上の誤りがない。	誤字・脱字、文法上の誤りが1～2カ所ある。	誤字・脱字、文法上の誤りが3カ所以上ある。
	文体		常体（だ、である調）もしくは敬体（です、ます調）で統一されている。	常体と敬体が混じっている。
書誌情報			引用文献の書誌情報が全て書かれている。	引用文献の書誌情報が一部しか書かれていない。もしくは、全く書かれていない。

レポート4 採点用

課題 「大学の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるべきである」という主張に賛成か、反対か、いずれかの立場を選び、根拠となる文献を参照・引用しながら論じなさい。参考文献を除いて、150字～300字で論じること。

観点		理想的	標準的	要改善
構成	立場の表明	冒頭または末尾に立場に関する記述がある。	冒頭または末尾以外に立場に関する記述がある。	立場に関する記述がない。
	立場をとる根拠	立場をサポートする根拠となる文献が2つ以上示されている。	立場をサポートする根拠となる文献が1つ示されている。	立場をサポートする根拠となる文献が示されていない。もしくは、そもそも立場に関する記述がない。
	立場のサポートとは関係のない記述	立場のサポートとは関係のない記述がない。	立場のサポートとは関係のない記述が全体の2割未満である。	立場のサポートとは関係のない記述が全体の2割以上である。
表現	誤字・脱字	誤字・脱字、文法上の誤りがない。	誤字・脱字、文法上の誤りが1～2カ所ある。	誤字・脱字、文法上の誤りが3カ所以上ある。
	文体		常体（だ、である調）もしくは敬体（です、ます調）で統一されている。	常体と敬体が混じっている。
書誌情報			引用文献の書誌情報が全て書かれている。	引用文献の書誌情報が一部しか書かれていない。もしくは、全く書かれていない。

6. セッション課題一覧

ここでは、各セッションで出題された課題を再掲しています。復習等にお役立てください。

W6-1 評価の意義および特徴についての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 学習のプロセスを支援する役割を持つ「形成的評価」と、達成された学習成果を測定するための「総括的評価」があるが、期末試験などでは、学生の成長を測るためにも「形成的評価」を意識して評価を行うのが望ましい。
- 2) 評価は、学生にとって、到達度の把握を促すとともに学びの支援にもなり得る。
- 3) 評価は、社会にとって、大学や学部、教員の説明責任を果たさせ、質保証につなげる意義を持つ。
- 4) 評価は、教員にとって、学生の理解度の確認を促し、支援をしやすくするとともに、授業改善にも役立てられる。

W6-2 評価の正当性を評価するための4つの観点の説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 「妥当性」とは、測ろうとしている能力や行動を測るに適している評価方法かどうか、を問う。
- 2) 「客観性」とは、異なる採点者が採点しても同じ結果になるかどうか、を表す。
- 3) 「効率性」とは、評価後にどれほど不服申し立てや問い合わせが発生しづらいか、をいう。
- 4) 「信頼性」とは、ある集団の回答の信ぴょう性のことをいう。

W6-3 評価方法としてのルーブリックの説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) ルーブリックとは、選択式の試験解答などを採点する際に有効な評価方法である。
- 2) ルーブリックとは、プロジェクトやレポート、実技などのパフォーマンスを評価する際に、評価基準を具体化しないまま総合的に評価するために役立つ評価方法である。
- 3) ルーブリックには、ある課題についての評価の観点、尺度、および基準を記すのが基本である。
- 4) 採点後のルーブリックを見ることで、学生は、教員が習得を期待していたスキル・知識に関して、自分がどの程度まで達成することができたのかを理解し、具体的なフィードバック内容も得ることができる。



W6-4 ルーブリックの作成についての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) ルーブリックを作成するには、評価の観点を思いつく限り列挙し、できるだけ詳細に作成することで、「信頼性」や「効率性」を高めることができる。
- 2) ルーブリックを作成する際、評価の尺度は、評価の基準を決めてからでないと定められない。
- 3) ルーブリックに記す評価の観点を考える際には、その授業の目的・目標を確認し、対応させるとよい。
- 4) ルーブリックを最初から新しく作成する方法の他に、既にあるルーブリックをもとに作成できることもある。

7. 参考文献一覧

(セッションにおいてとりあげたトピックに関する文献等)

Angelo, T. A. & Cross, K. P. (1993) Classroom Assessment Techniques: A handbook for College Teachers. 2nd Ed., Jossey-Bass:CA

主に教室内の評価方法についてたくさんの方が紹介されています。

ダネル・スティーブンス他 (2014) 『大学教員のためのルーブリック評価入門』 玉川大学出版部

ルーブリックについて平易にかかれています。

夏目達也・近田政博・中井俊樹・齋藤芳子(2010) 『大学教員準備講座』 玉川大学出版部

評価について簡潔にまとめられています。

佐藤浩章編(2010) 『大学教員のための授業方法とデザイン』 玉川大学出版部

評価についてわかりやすくごく簡潔にまとめられています。

WEEK7 キャリアパスを考える 1

～大学教員としてのあり方～

ワークシート目次

1. SESSION 1 変わりゆく大学
2. SESSION 2 大学教員のあり方
3. SESSION 3 目指す大学教員像を考える
4. SESSION D 理想の大学教員像
5. 各セッションの多肢選択課題一覧
6. 参考文献

WEEK7 の目的と目標

目的 大学教員として今求められていることを理解し、そのあり方について考えることができる

到達目標

1. 日本の高等教育の概要を説明できる
2. 大学教員としての責務を4つ挙げ説明できる
3. 現在の活動の俯瞰と今後の展望を行うツールとしてのポートフォリオの特徴について説明できる





1. SESSION 1 変わりゆく大学

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所ではテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W7.S1.Question1

高等教育機関にはどのようなものがあるでしょうか。その種類について思いつくものをあげてみましょう。

W7.S1.Question2

日本の大学の数は？

1. 約 300
2. 約 800
3. 約 1500

W7.S1.Question3

「全入時代」とはどのようなことでしょうか。

1. 18 歳人口と大学入学定員が同じ
2. 大学進学希望者総数と大学入学定員総数が同じ

W7.S1.Question4

大学への進学率はどれくらいでしょうか。

1. 約 25%
2. 約 50%
3. 約 75%



2. SESSION 2 大学教員のあり方

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所ではテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W7.S2.Question1

大学教員の仕事をあげてみましょう。指導教員などあなたの周りの大学の先生はどのような仕事を普段していらっしゃいますか。挙げてみましょう。



3. SESSION 3 目指す大学院像を考える

下記はこのセッションでは特に Question はありません。メモスペースとしてご活用下さい。



4. SESSION D 理想の大学教員像

今週学習した大学教員の職責を踏まえて、あなたが理想とする教育と研究のバランスを考えてみましょう。両者の関係をどのように考えますか？

W7.D

本ページ下部のスペースに「教育」と「研究」の2つの円を書いて下さい。その際、2つの大きさのバランスや重なりによって、あなたが理想とする大学教員の教育と研究のありかたを表現してみましょう。

5. セッション課題一覧

ここでは、各セッションで出題された課題を再掲しています。復習等にお役立てください。

W7-1 日本の高等教育の概要についての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 日本の大学の総数は約 800 であり、その中の私立の割合は、約 50%である。
- 2) 日本の大学進学率は、約 70%である。
- 3) 少子化に伴い大学進学希望者総数が減っており、ついに 18 歳人口と大学入学定員がほぼ等しい「全入時代」に突入したと言われている。
- 4) 大学をめぐる状況は大きく変化しており大学は学生の多様化や学習環境の変化などに対応してゆく必要に迫られている。

W7-2 大学教員の責務についての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 専門領域やキャリアステージに関わらず、大学という機関の性質を考慮すると、大学教員は何よりもまず「教育」の仕事により多くの比重を置いて取りかからなければならない。
- 2) 大学教員の教育者としての質の保証が重視されるようになるのに伴い、いわゆるファカルティ・ディベロップメントの義務化などが行われた。
- 3) 大学教員の仕事は大きく分けて、「教育」、「研究」、「社会貢献」、「管理運営」の4つが挙げられる。
- 4) 大学教員の採用場面では、日本のどの大学でも、依然として「研究」の能力だけが採用基準としてみられており、今後この傾向は強まると予想されている。

W7-3 ポートフォリオについての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 学生の作成するポートフォリオは一般的にラーニング・ポートフォリオと呼ばれる。
- 2) ポートフォリオを作成することは、現在までの活動の整理や、理想の明確化、目標の設定、および改善への気づきに役立つ。
- 3) 大学教員としてのキャリア・パスを考える際に、目指すものを明確化したり、長期目標を設定しても、その通りに進まないことがほとんどであり、時間の無駄である。
- 4) ポートフォリオは、自分の活動全体を多角的にとらえ直し、俯瞰することにつながる。

6. 参考文献一覧

ケン・ベイン 高橋靖直訳 (2008) ベスト・プロフェッサー 玉川大学出版部

優秀な教育者としての大学教員の事例を集めています。

ピーター・セルディン, エリザベス・ミラー著 大学評価・学位授与機構監訳・栗田佳代子訳 (2009) 『アカデミック・ポートフォリオ』 玉川大学出版部 (Peter Seldin and J. Elizabeth Miller (2008) *The Academic Portfolio: A Practical Guide to Documenting Teaching, Research, and Service*, Jossey-Bass Higher and Adult Education)

アカデミック・ポートフォリオ開発者の書籍の訳書です。

ピーター・セルディン著 大学評価・学位授与機構監訳・栗田佳代子訳(2007) 『大学教育を変える教育業績記録』 玉川大学出版部 (Peter Seldin (2004) *The Teaching Portfolio: A practical guide to improved performance and promotion/tenure decisions 3rd ed.* Anker Publishing Company, Inc.)

自己省察を重視するタイプのティーチング・ポートフォリオ開発者の書籍の訳書です。

杉原厚吉 (2012) 『大学教授と言う仕事』 水曜社

日本の大学教員がどのような仕事をしているのか、当人が語っています。

Debowski, S. (2012). *The New Academic: A strategic handbook*. Maidenhead, Berkshire: Open University Press.

大学教員の職責およびあり方について詳細に解説されています。

WEEK8 キャリアパスを考える 2

～ポートフォリオの利用～

ワークシート目次

1. SESSION 1 構造化アカデミック・ポートフォリオ
2. 各セッションの多肢選択課題一覧
3. 参考文献

このセッションでは, SESSION1 にある Handout のみで進行します. 他に Question などはありません.

WEEK8 の目的と目標

目的 教育と研究についての活動を俯瞰し, 大学教員としてのキャリア・パスを展望する

到達目標

1. 構造化ポートフォリオと作成の意義を説明できる
2. SAP チャートの意義と全体構成を説明できる
3. SAP チャートの具体的な作成ステップにしたがい自分のチャートを説明できる





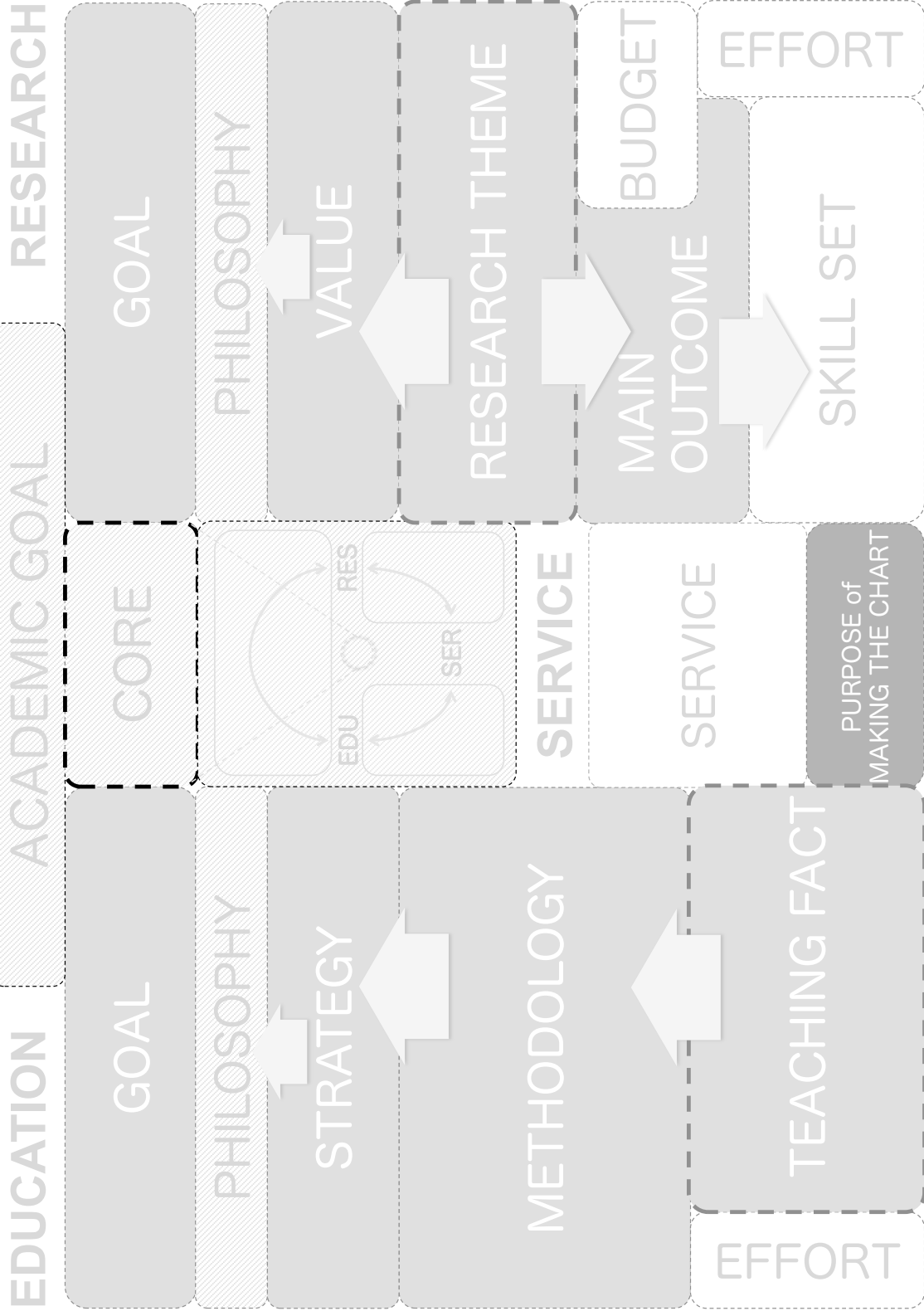
1. SESSION 1 構造化アカデミック・ポートフォリオ

次のページにはこのセッションで使う Handout があります。この WEEK8 では通して使いますのでお手元にご用意下さい。なお、A4 で添付してありますが、実際にチャートを作成される際には A3 サイズへの拡大をおすすめします。

W8.S1.Handout (次のページ)

INTEGRATION

NAME _____
DATE _____



6. セッション課題一覧

ここでは、各セッションで出題された課題を再掲しています。復習等にお役立てください。

W8-1 構造化アカデミック・ポートフォリオの説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 構造化アカデミック・ポートフォリオとは、大学教員としての活動について構造的にふり返り、根拠資料によって裏付けながら記述した、厳選された文書のことをいう。
- 2) 構造化アカデミック・ポートフォリオが取り扱うのは、大学教員としての主な任務である「教育」と「研究」に限られる。
- 3) 構造化アカデミック・ポートフォリオの作成方法は自由であり、参考にすべきフォーマットも何もない状態から書き始める。
- 4) 構造化アカデミック・ポートフォリオを作成することで、よりよいキャリア・パスを考える機会となる。

W8-2 SAP チャートについての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) SAP チャートは、構造化アカデミック・ポートフォリオを書き終えた際に、まとめの意味で書き込むものである。
- 2) 構造化アカデミック・ポートフォリオの目的は現在までの自分をふり返ることであるため、SAP チャートを作成する際には、「これからのこと」を極力書かないように注意する。
- 3) SAP チャートに記入することで、社会が大学教員としての自分に期待していることを整理することができる。
- 4) SAP チャートを作成することで、構造化アカデミック・ポートフォリオの構造を可視化することができ、それを作成するガイドとなる。

W8-3 SAP チャートの教育の欄を記入する手順についての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) まずは左下の「Teaching Fact」に、今までの教育経験を記入する。
- 2) 2番目に、「Teaching Fact」の上の「Methodology」に、各教育場面で用いている方法・心がけていること、および、今後用いてみたい方法・心がけたいこと、を記入する。
- 3) 3番目に、「Goal」の欄に、理想の自分像を記入する。
- 4) 最後に、「Goal」に書いた内容を踏まえて、今後そのようになるためにはどのような策略を持てばよいかを考え、「Strategy」の欄に記入する。

W8-4 SAP チャートの研究の欄を記入する手順についての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) まず右上の「Goal」に、これから取り組みたいと思っている研究テーマを記入する。
- 2) 「Main Outcome」には、「Research Theme」に記入した研究テーマとの関連性の有無に関係なく、今までの自分の主な業績を列挙する。
- 3) 右下の「Research Theme」には、今取り組んでいる研究テーマのみを記入する。
- 4) 「Value」の欄には、「Research Theme」で書いた研究テーマが持っている意義や目的について記入する。

W8-5 SAP チャートのサービス・統合の欄を記入する手順についての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) SAP チャートの下部にある「Service」の欄には、社会貢献活動としてボランティア活動や公開講座担当経験などについて記入するとともに、各種委員会委員としての活動歴についても記入するとよい。
- 2) 「Integration」の欄に記入する際には、「教育」「研究」および「サービス」について記入してきたことを見直し、それぞれの関係性について考え、互いに寄与あるいは貢献していることについて記す。
- 3) 「Core」の欄には、今まで SAP チャートに書いてきたあらゆる活動をするうえで、あなたが一貫して持っている姿勢や態度について、考えたことを記入する。
- 4) 「Academic Goal」の欄には、現実的な短期的目標などは書かず、自分の究極的な目標だけを記入することで、意識を高めることができる。



7. 参考文献一覧

Debowski, S. (2012) *The New Academic: A strategic handbook*. Maidenhead, Berkshire: Open University Press.

大学教員の職責およびあり方について詳細に解説されています。

吉田壘・栗田佳代子 (2014) 構造化アカデミック・ポートフォリオの開発 日本教育工学会研究会, 15-21

SAP チャートについて解説されています。